昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成24年7月1日発行（毎月1日発行）第62巻 第7号
ISSN 0913-9850

2012 Vol.62
7月号

MONTHLY かもつ

JR貨物 代表取締役社長に田村修二氏が就任
平成24年度 定時社員総会開催

八戸貨物駅から春掘りの長芋を鉄道輸送
有限会社五日市青果

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

Index

表2 土木・建築遺産

1 JR貨物 代表取締役社長に田村修二氏が就任

2 平成24年度 定時社員総会開催
ご挨拶 公益社団法人 鉄道貨物協会 名誉会長 米倉 弘昌
ご挨拶 公益社団法人 鉄道貨物協会 理事長 米本 亮一
祝 辞 国土交通省 鉄道局次長 田村明比古
祝 辞 日本貨物鉄道株式会社 代表取締役社長 小林 正明

6 平成24年度 本部表彰者一覧表

7 支部だより
平成24年度 支部通常総会順次開催

10 事業活動
第4回 レールエキスポ京都に出展 近畿支部

11 お国自慢 伊勢神宮・式年遷宮

12 FREIGHT EYE

14 新規会員企業紹介 今津薬品工業株式会社

15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト 有限会社五日市青果

20 貨物駅の仕事ガイド
積付検査から出線まで 新座貨物ターミナル駅

22 SPOTLIGHT 日本紙運輸倉庫株式会社

表3 「FREIGHT EYE」撮影メモ／JR貨物輸送概況

JR貨物 代表取締役社長に田村修二氏が就任

日本貨物鉄道株式会社

代表取締役社長 **田村 修二**

ごあいさつ

さる6月22日の定時株主総会、取締役会において、JR貨物の社長に選任された田村修二でございます。

最初に、会員の皆様におかれましては、平素より弊社の業務運営に格別のご高配を賜りますことを、この場を借りて御礼申し上げます。

国鉄改革により弊社が発足してからはや25年が経過し、その間、弊社を取り巻く環境も大きく変化しております。最近では、4年前のリーマン・ショックに端を発した世界同時不況、昨年3月の東日本大震災は、弊社にとって大きな打撃となる出来事でありました。幸い、震災による復旧は、協会会員各位、JR旅客会社、行政機関他多くの関係者のご支援を頂いた結果、本年中に常磐線の一部区間を除いて完了する見通しとなりました。経営面をみても、昨年度は震災直後で大変厳しい状況ではありましたが、おかげさまで、何とか2期連続の経常黒字を確保することができました。しかし、世界的な信用不安の高まりによる円高の定着に加え、昨年からの電力需給のひっ迫が、国内の経済活動へ深刻な影を落としており、弊社が依然厳しい状況下に置かれていることに変わりはないと認識しております。このような時期に社長を拝命し、誠に身の引き締まる思いでありますが、小林前社長からのバトンを受けて精一杯職務に邁進する覚悟でございますので、会員の皆様からのますますのご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

ここで、社長就任にあたっての抱負を申し上げます。皆様御高尚の通り、鉄道貨物輸送は、安全性に加え、定時・定型・大量輸送という機関特性、さらに全国をネットワークする事業基盤を有しております。改めて、この機関特性・特徴を最大限引き出して、お客様に安心してご利用頂ける環境と、競争力のあるサービスを提供することが、私の第一の使命であると認識しておりますし、ひいては、それが弊社の経営に安定をもたらすと確信しております。鉄道事業者の最大の使命である「安全の確立」に向けて、引続き安全管理体制の強化に取組むとともに、近年、大規模な自然災害の多発、人身事故や動物類との衝突等の頻発により、安定輸送が著しく阻害されている現状を直視し、マーケットでの信頼回復に不可欠である「安定輸送の確保」に全力で取組みます。また、輸送中に生じる貨物事故の防止を目的とした「コンテナ輸送品質の向上」、来春に完成を目指している吹田貨物ターミナル駅、隅田川駅改良等のインフラを最大限活用した、「より一層ご利用しやすいダイヤの提供」にも力を入れていく所存です。近年では、お客様の環境問題に対する認識も変化し、CSRの観点から事業活動に伴う環境負荷を抑えて持続可能な発展を目指す企業が急増しています。エネルギー効率の良い鉄道貨物輸送が、お客様の期待に応える諸施策を実行することで、モーダルシフトの流れを加速させ、特に、その特性が発揮される中長距離の分野で一定の地位を確立すべく、最大限の努力を払っていきたいと考えています。

弊社は会社発足時に、主に昭和40年代に製造された機関車・貨車、そして多くの旧態依然とした貨物駅を旧国鉄から承継してスタートしました。そのため、設立から現在に至るまで、老朽車両の取替・近代的な貨物駅の整備は経営上の一貫した最重要テーマであり、設備投資の大半をそこに充当してきた歴史があります。しかし、今年度初で見ても機関車の5割、貨車の3割が依然として国鉄時代の車両であり、経年40年を超す車両も増えている状況です。そのような中、老朽車両・駅設備の取替投資等に充当するために鉄道・運輸機構の特例業務勘定を活用した無利子貸付、助成金による支援措置が昨年度から講じられました。そして、この支援を受ける前提として、鉄道事業の黒字化を達成し、平成30年度までに経営の自立を目標とする「経営自立計画」を策定しております。弊社が経営自立を達成することは、国鉄改革の趣旨に基づく目標でもあり、その成否を決める重要な課題であると考えています。計画の実行は、まだ端緒についたばかりですが、全社員の先頭に立ち、計画の各施策を着実に実行していくことが、社長に就任した私の大きな責務であると感じております。また、コーポレート・ガバナンスの強化についても、将来の株式上場に向けた強固な基盤作りのために進めてまいる所存です。

最後になりましたが、鉄道貨物協会のますますのご発展、並びに会員の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、社長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成24年度

定時社員総会開催

公益社団法人 鉄道貨物協会

名誉会長 米倉 弘昌

定時社員総会を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

ご来賓の国土交通省鉄道局次長　田村明比古様、日本貨物鉄道株式会社代表取締役社長　小林正明様、ならびに会員の皆様、本日は、ご多忙のところ、鉄道貨物協会定時社員総会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、東日本大震災が発生いたしましてから1年と2ヶ月余りが立ちました。わが国経済は、震災後の急激な落ち込みから抜け出し、緩やかな回復を見せているものの、行き過ぎた円高、欧州の債務問題などを背景に、今後の見通しは依然として不透明な状況が続いております。

一方、震災からの復興につきましては、今年に入って、復興庁の設置や復興特区に関する法律の制定など、ようやく国をあげた本格的な取組みが加速してまいりました。今後、復興庁を軸に、政･官･民連携のもと、被災地の皆様の生活の早期再建と被災地域の再生に直結する効果的な復興対策がスピーディに実施されることを強く期待しております。

当協会といたしましても、被災地のがれき輸送の支援など、様々な形で被災地の早期復興に貢献してまいりたいと存じます。

当協会は、昨年11月、「公益社団法人」として新たなスタートを切りました。これを機に、行政、荷主企業会員、利用運送事業者会員、鉄道事業者会員の連携をより一層強化し、国民生活に不可欠な物資を輸送する基幹輸送手段としての鉄道貨物輸送の安定性･安全性のさらなる向上と、鉄道輸送に関わる環境負荷の低減に向けた様々な研究や情報提供、普及啓発事業を推進してまいります。

今後とも倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、ご来賓並びに会員の皆様方のますますのご繁栄とご健勝を心より祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

平成24年5月28日

公益社団法人 鉄道貨物協会
理事長 米本 亮一

本日は時節柄、何かとご多忙の折、多数の方のご参加を頂き、誠に有難うございます。来賓として国土交通省からは、田村鉄道局次長様、JR貨物からは小林社長様をはじめ、関係の皆様方のご出席を頂いております。有難うございます。

又、ご出席を頂いている皆様方を初め、関係の皆様方からは当協会に対して、長年、多方面、多次元に亘り、格段のご支援、ご協力、ご指導を頂いております。本席を借りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、当協会は、昨年11月に公益社団法人としてスタートして、はや半年が過ぎました。お陰様で順調に推移してございます。荷主企業様、利用運送事業者さん、貨物鉄道事業者さん、最近では個人のお立場でご支援を頂いている皆様方が増えておりますが、この4者会員により構成されており、貨物鉄道の応援団であることを柱にし、調査研究活動をはじめ、種々の活動を行って参りました。

貨物鉄道輸送のシステムが国民的財産である、これがもっともっと活躍してもらいたい、という社会の期待が高まっております。こうした背景があってのことではありますが、直近、特筆すべき動きが内外で出てきております。1、2ご紹介申し上げて、挨拶に変えさせて頂きたいと存じます。お手元の資料1をご覧ください。

当協会のベーシックな課題の1つにエコレールマーク事業の推進ということがございます。このエコレールマークが幾つかの県で公立の高等学校、或いは中学校の入学試験の試験問題に採り上げられまして、エコレールマークの趣旨･意義を述べよという訳です。エコレールマークを、そして貨物鉄道のことを知らないと高校は入れないという時代になってきつつあります。

もう1つは、国の根幹を決める憲法において、貨物鉄道が採り上げられる先進国が出てきたということであります。旅客鉄道ではありません、貨物鉄道でございます。

資料2をご覧ください。スイス憲法84条の2に、国境を越える貨物の輸送は鉄道で運ばなければならない、何とも判り易いものです。

以上象徴的な事象を2つ程、紹介させてもらいました。

産業活動、それに伴う物流活動も着実にグローバル化しております。こうした地殻変動に対応すべく、当協会も諸々の活動に取り組んでまいる所存でございます。

これからも従前に引き続き、ご支援、ご指導の程よろしくお願い致します。

最後に、本日ご出席頂いております皆様方のますますのご健勝をお祈り申し上げまして、私の挨拶とさせて頂きます。

国土交通省

鉄道局次長 **田村 明比古**

本日、ここに公益社団法人 鉄道貨物協会 平成24年度定時社員総会が開催されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

貴協会が昭和25年に設立されてから60有余年となり、昨年11月からは公益社団法人として新たな一歩を踏み出されましたが、この間、鉄道貨物輸送の発展のために、多大な成果をあげてこられたことに対し、心より敬意を表するとともに、日頃からの国土交通行政に対するご理解、ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

鉄道貨物輸送が、国民生活や国民経済を支えている重要な輸送手段であることは言うまでもありません。

昨年の東日本大震災後の救援物資輸送における支援活動や、最近では、この震災で発生した大量の災害廃棄物、いわゆる「がれき」の処理について、鉄道によるコンテナ輸送が開始され、今後の被災地域の復興に大きな役割を担うことからも、いざという時に頼ることのできる鉄道貨物輸送の重要性について、多くの方々が再認識されるようになってきています。

他方、色々な面で優れた特性を有する鉄道貨物輸送へのモーダルシフトは、現状では必ずしも十分に進んでいるとは言えません。鉄道貨物輸送の更なる利用促進に向けて、荷主企業の皆様、鉄道利用運送事業者の皆様、JR貨物をはじめ鉄道事業者の皆様、そして私ども行政が一体となって協力し、知恵を出し合って、取組みを一層強化していく必要があると考えております。

国土交通省といたしましても、鉄道貨物輸送へのモーダルシフトを支援するため、様々な税制優遇措置を講じるとともに、幹線鉄道に係るインフラ整備支援を実施してきたところでありますが、今年度からはさらに、環境省と連携して、中長距離幹線輸送におけるトラックから鉄道へのモーダルシフトの推進を図るため、鉄道輸送用31フィートコンテナの新規導入に対して支援を行う「物流の低炭素化促進事業」を創設して、現在、公募を開始したところであります。

また、昨年8月に債務等処理法の一部改正が施行されたことを受け、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構の特例業務勘定における利益剰余金を活用して、JR貨物が行う車両更新等の努力を後押しして参りたいと考えております。

こうした行政的支援に合わせて、貴協会の活動が果たす役割は大変大きいと考えます。事務局として取り組んでいただいているエコレールマーク事業は、認定商品数、企業数が着実に増加してきているところであり、さらなる浸透に向けてご協力をお願い申し上げます。そして、利用促進、輸送品質向上など、貴協会の取組みが一層活発化されますよう、強くご期待申し上げる次第であります。

今後とも、鉄道貨物輸送が最大限活用され環境に優しく効率的で信頼できる物流が、確保されますよう、関係者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、公益社団法人 鉄道貨物協会のますますのご発展と、本日御列席の皆様方のご健勝ご繁栄を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせて頂きます。本日はおめでとうございます。

日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長 小林 正明

ご紹介頂きましたJR貨物の小林です。協会並びに会員各社の皆様には、平素より格別のご支援を賜っており、冒頭厚く御礼申し上げます。

昨年の振り返り

昨年は「大震災」に始まり「ゲリラ豪雨」「大型台風」「大豪雪」等とにかく「自然災害」にやられっ放しの1年でした。運休本数は5000本近くに上り「安定輸送」が大きく崩れてしまいました。こんなことは、10数年なかったことですが改めまして大変なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げる次第です。

過日「23年度決算」を発表致しましたが、不況経済に加えてこのような厳しい状況の連続でしたが、お陰様で何とか首の皮一枚繋がり1億円の黒字を計上することができました。厚く御礼申し上げます。

新年度に入って

新年度に入って早や2ヶ月が経ちましたが、輸送量は対前年110%前後で推移しております。昨年は異常な年でしたので比較になりませんが、これを差し引きましても“景気回復の確かな手応えがある”そんな感じがしています。最近の新聞報道を見ましても日本経済は「復興需要」等が下支えとなって“緩やかな回復基調”に向かうとの見方が一般的となっています。

しかし一方で「欧州危機」やエコカー補助金等の「政策効果の息切れ」そして「電力不足」といったリスク要素もありますが予断は許されないと思います。

ガレキ輸送

最近の話題を幾つかご紹介しますとまずは「ガレキ輸送」ですが、4月以降「広域処理」の気運が一気に高まって全国35県のうち17道府県と5政令都市が「受け入れ」を表明しました。

連休前には、全国の自治体から問合せや依頼が殺到しましたが、この2～3週間「排出」・「受入れ」体制の準備が遅れているのか、中央・地方ともにやや“足踏み状態”となっています。

今後の見通しですが、あと1年半で全てを処理するという政府の方針ですが、量さえまとまれば夏頃から“専用列車”を運行する予定です。

本件につきましては、フォワーダーの皆様との二人三脚で“社会貢献”として全力で取り組んでいく所存です。

31フィートコンテナの導入

次に従前よりマーケットの皆様から強いご要望のあります「31フィートコンテナ」についてですが「大型トラックにぴったりで荷役性に優れ」また「スポット輸送に便利」ということで人気度が大変に高い訳ですが、いよいよ本年度から本格投入することと致しました。

これにつきましては、大変有難いことですがモーダルシフトの促進という観点から、国交省・環境省から「50%という手厚い補助」を頂くこととなりました。下期中に25個を東海～山陽の幹線区間に投入していく予定です。

電力不足問題

それから夏期の「電力不足」の問題ですが、大飯（おおい）原発の再稼動如何ですが、関西地区や九州地区ではかなりの“電力不足”が危惧されています。昨年のような「電力使用制限令」は出さずに何とか節電等で乗り切っていく方針のようです。

JR貨物と致しましては、今後の展開次第ですがとにかく“列車の運転計画に支障をきたすことのないよう”JR各社と緊密な連絡、調整を図って参る所存です。

大規模プロジェクトと25春ダイヤ改正

ところで4年前から国の暖かい支援を受け、進めて参りました「隅田川モーダル事業」国鉄改革以来の悲願であります「梅田駅の吹田・百済への移転プロジェクト」がいよいよ来年春に迫っております。

これに合わせ大規模な「白紙ダイヤ改正」を予定しております。62.4以来の“輸送体系の抜本見直し” “商品力の強化” “首都圏フィーダ輸送のシステムチェンジ” “効率化”等を図る計画です。これにより「全国ネットワーク」「中長距離輸送」といった鉄道の強みをフルに発揮できるような「構造への思い切った変革」「良いダイヤづくり」を行う絶好のチャンスだと考えています。

この点につきましては、年初から抜かりなきよう周到に準備を進めてきた積もりですが、マーケットの皆様からは大きな期待が掛かる一方「ダイヤが一変し不便になるのでは?」といった不安の声や色々なご意見を頂戴します。すでに、具体的なダイヤをお示ししておりますが、早め早めのご意見・ご要望を頂戴できれば幸いです。

経営自立計画

本年は「国鉄改革25年」という節目の年。鉄道・運輸機構からは「7年間で700億円の無利子貸付金」等の財政支援を受け“老朽車両の思い切った取替”等に活用させて頂くこととしましたが、これを受け今般そう遠くない将来に“上場基準を達成できる”ような「経営自立計画」を立案し、新たなるスタートを切った所であります。

安定輸送の確保、品質の向上

最後になりますが、昨今の「環境問題」に加え、長距離トラックの「ドライバー不足」はいよいよ深刻になっております。「鉄道期待は高まる一方」そう言われて幾久しい訳ですが、これからこそが「鉄道の出番」だと思っています。

このように経営環境はまさに「追い風」でありますが、真に“使命”を果たしていくためには、やはり「安定輸送の確保」と「品質の向上」こそが大前提になると思います。

とくに後者につきましては、昨年「コンテナ品質向上キャンペーン」を行ない、それなりの成果を収め大変好評でした。本年も引き続いて「リフト作業」だけでなく「積み付け」等の「荷役作業」の“改善”についても、地道に取り組んで行きたいと考えております。

最後に

最後に一言、JR貨物にとりまして現下における喫緊の課題は、何と言っても「収入規模の維持、拡大」であります。昨年は「大震災」等特殊事情もあった訳ですが、コンテナ収入は残念ながら初めて「1000億円の大台」を切ってしまいました。このままでは「縮小均衡」のサイクルに陥っていってしまうのではと危惧の念を抱いている所であります。

改めまして、「営業推進体制の再構築」と「新規顧客の開拓」等に全力を上げる所存ございます。会員各社の皆様には、ぜひ“鉄道利用の拡大”につきまして、更なる一層のご支援を賜りますようお願い申し上げる次第です。

結びと致しまして、協会並びに会員各社の今後のますますのご発展を祈念致しましてご挨拶とさせて頂きます。

協会事業協力者表彰（敬称略）

支部名	氏　名	会社名・団体名
本　部	西沖　茂	旭化成ケミカルズ株式会社
北海道支部	金井喜宏	株式会社カネキ金井商店
仙台支部	村上康彦	仙台運送株式会社
仙台支部	永山　忍	郡山運送株式会社
宇都宮支部	中郷昌男	栃木県北通運株式会社
高崎支部	松永正一	高崎通運株式会社
東京支部	大澤敏夫	日本運輸倉庫株式会社
長野支部	大森　勉	養命酒製造株式会社駒ヶ根工場
名古屋支部	林　昭二	濃飛倉庫運輸株式会社
米子支部	前田英典	王子製紙株式会社米子工場
九州支部	岩男秀彦	鹿児島通運株式会社

平成24年度

本部表彰者一覧表

平成24年度定時社員総会において、次の方々が表彰されましたのでご紹介いたします。受賞されました皆様方に、心からお祝い申し上げますとともに、今後とも益々のご活躍を期待いたします。

鉄道貨物協会 米本理事長より賞状の授与

鉄道貨物輸送功労者表彰（敬称略）

支部名	氏　名	会社名・団体名
北海道支部	澤石　力	アサヒビール株式会社
青森支部	種市輝雄	八戸通運株式会社
盛岡支部	片方弘尚	全農物流株式会社東北支社盛岡営業所
秋田支部	吉尾清兵衛	全農物流株式会社秋田県支店
仙台支部	岩崎隆一	全農物流株式会社東北支社
新潟支部	菱沼正治	日本石油輸送株式会社新潟事業所
水戸支部	舟幡孝一	全通内国通運株式会社
東京支部	斉藤登嘉	王子運送株式会社
静岡支部	福永　明	日本大昭和板紙株式会社吉永工場
名古屋支部	加藤幸雄	カリツー株式会社刈谷物流センター
北陸支部	横井健治	センコー株式会社名古屋主管支店
近畿支部	髙橋晴毅	シャープ株式会社西日本ロジスティクスセンター
近畿支部	辻　耕治	タツタ物流株式会社
岡山支部	片岡楠彦	日本フレートライナー株式会社関西支店
四国支部	松島義隆	帝人物流株式会社愛媛支店
広島支部	倉又　明	日本製紙株式会社岩国工場
九州支部	今井忠道	日鐵物流八幡株式会社

平成24年度 支部通常総会順次開催

平成24年度の支部通常総会は6月5日の東京支部の総会を皮切りに、全国21支部が順次開催されました。
各支部では多数の方々が参加され、今年度の活動方針を発表しました。
各支部の開催模様を掲載いたします。

四国支部

●日時　平成24年6月5日(火)
●場所　リーガホテルゼネスト高松

四国支部では、6月5日(火)高松市のリーガホテルゼネスト高松において、平成24年度通常総会を開催致しました。
竹崎支部長ご挨拶のあと、来賓として四国運輸局局長丸山研一様、四国経済産業局産業部長林恒夫様、JR貨物関西支社営業部グループリーダー吉田真也様にご祝辞をいただきました。続いて、鉄道貨物輸送功労者5名の方々の表彰、議案の審議を行い、無事承認されました。

講　演

講　師：株式会社リンパ・ヘルス・ジャパン代表取締役
　　木村友泉氏
テーマ：「疲れ切っている心と身体のコリ退治!
　　―リンパケアで肩こり・腰痛・ストレス解消―」
さとう式リンパケア公認として講習会などで活躍。健康・美容のアドバイスを行っている。年齢を超越した若さとスタイルで、自らさとう式リンパケアの効率の体現者として人気を集める。リンパケアを取り入れた企業研修で社員の人間力アップ、作業率アップを実現。

東京支部

●日時　平成24年6月5日(火)
●場所　芝弥生会館

東京支部では、6月5日(火)に平成24年度通常総会を「芝弥生会館」にて開催致しました。ご来賓として、国土交通省関東運輸局神谷敏広局長様、日本貨物鉄道株式会社関東支社福島義平支社長様、公益社団法人鉄道貨物協会米本亮一理事長よりご挨拶をいただきました。
議案につきましては原案通り報告了承・承認され、引続き支部発展功労者・鉄道貨物輸送功労者の表彰を行いました。

長野支部

●日時　平成24年6月11日(月)
●場所　ホテルメトロポリタン長野

長野支部では、6月11日に公益法人となって初めての支部通常総会を開催しました。
埋橋支部長挨拶のあと、ご来賓の北陸信越運輸局長野運輸支局田中首席専門官・長野県企画部高野課長補佐・JR貨物関東支社土井副支社長よりご祝辞を賜り、協会本部西山常務理事の挨拶に続き、鉄道貨物輸送功労者4名の表彰を行いました。その後議案の審議、報告事項の説明があり、全て承認されました。

北陸支部

●日時　平成24年6月12日(火)
●場所　ホテル金沢

講演された米本亮一代表理事

北陸支部では、6月12日(火)金沢市内のホテル金沢での通常総会を開催しました。
ご来賓として北陸信越運輸局石川運輸支局長の熊井様、JR貨物関西支社長の神立様より祝辞を頂いたあと、鉄道貨物輸送功労者表彰を行いました。続いて決算・事業計画等の議案審議及び報告を行い承認され無事閉会しました。
総会後に講演会を開催し、公益社団法人鉄道貨物協会米本亮一代表理事によります『すばらしい経営者から学んだ人づかいのコツ』について講演を頂き、会員をはじめ傍聴者の方々は、興味深く耳を傾けておられました。

講　演

演題：すばらしい経営者から学んだ人づかいのコツ
講師：公益社団法人鉄道貨物協会　代表理事　米本亮一
「すばらしい経営者から学んだ人づかいのコツ」をテーマに、代表理事がこれまでに接した経営者との体験から人を使うコツについて講義を受けました。聴講者からは「相手への愛情や発奮させることが必要である事を学び、大変に参考になりました」と好評でした。

平成24年度 支部通常総会順次開催

盛岡支部

●日時 平成24年6月13日[水]
●場所 ホテルメトロポリタン盛岡本館

“なわ”を編む気持ちが大切と講演された木村 隆光氏

盛岡支部は、6月13日(水)盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡本館において、平成24年度通常総会を開催しました。会員他約50名を前に、冒頭杉本博支部長の挨拶があり、ご来賓の東北運輸局岩手運輸支局鴇田支局長様、東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社増山運輸課長様、JR貨物から真貝常務執行役員東北支社長様のご祝辞を頂き、協会本部大野総務部総括次長の挨拶がありました。

議案審議は、それぞれ原案通り承認され、鉄道貨物輸送功労者3名様の表彰が行われました。

恒例の講演は、盛岡ターミナルビル株式会社木村取締役総務部長によります、「私の雑感“なわ”を編む気持ちが大切」と題して行われ、“地産地消”の大切さをアピールされ、大手資本進出に一石を投じる内容に、会員各位大いに共鳴し、興味深く耳を傾けていらっしゃいました。木村様は懇親会にも出席され、多くの会員から、「地元を大事にしていきます。」「賛同しました。」の声が寄せられておりました。

なお、東北支部設立に伴い、「盛岡支部」名は発展的解散となり、今後は「岩手県部会」となるため、感慨深い総会となりました。

高崎支部

●日時 平成24年6月12日[火]
●場所 ホテルメトロポリタン高崎

高崎支部では平成24年6月12日(火)ホテルメトロポリタン高崎において、平成24年度通常総会を開催致しました。ご来賓として、関東運輸局群馬運輸支局長前川様、群馬県県土整備部交通政策課中山様、JR貨物関東支社副支社長石原様にご挨拶をして頂いた後、3名の方に「鉄道貨物輸送功労者表彰」を行いました。その後、議題審議及び報告を行い、無事に閉会となりました。

青森支部

●日時 平成24年6月14日[木]
●場所 ウェディングプラザアラスカ

講演された中村 郁子氏

6月14日(木)青森市のウェディングプラザアラスカにおいて、平成24年度青森支部通常総会を開催しました。ご来賓に東北運輸局青森運輸支局、青森県、JR貨物東北支社、鉄道貨物協会本部の方々にご臨席いただき、各種議案につきましては原案通り承認されました。その後、鉄道貨物輸送に貢献された6名の方に鉄道貨物輸送功労者表彰を行いました。総会終了後、青森大学薬学部教授中村様による『薬の上手な使い方』をご講演していただきました。

広島支部

●日時 平成24年6月14日[木]
●場所 広島ガーデンパレス

野球解説者の北別府 学氏による講演

広島支部では、平成24年6月14日(木)広島ガーデンパレスにおいて、平成24年度通常総会を開催致しました。

深山支部長の開催挨拶に続きご来賓として、中国運輸局自動車交通部松山部長、JR貨物関西支社山田営業部長、協会本部開藤理事・業務部長にご挨拶を頂いた後、本部表彰紹介と広島支部各地区から5名の方に「鉄道貨物輸送功労者表彰」を行いました。

議案審議では、平成23年度事業報告・決算報告及び平成24年度事業計画・収支予算(案)、支部規則の変更並びに幹事の選出について審議、報告を行ない承認されました。

講演会では、元広島東洋カープ、野球解説者の北別府学氏に「プロとしての精神論」と題してご講演頂きました。開催告知が地元紙の中国新聞に掲載され、多くの一般の方々にもおいで頂き質疑応答では答えきれないほど時間いっぱいまで盛り上がり、公益社団法人としての第一歩を踏み出すことができました。

名古屋支部

●日時　平成24年6月14日(木)
●場所　名古屋商工会議所ホール

消費税と原発の問題について講演された岸 博幸氏

名古屋支部では6月14日(木)に平成24年度通常総会を名古屋商工会議所に於いて開催致しました。

最初に、名古屋商工会議所理事･部長内川尚一様から支部長に代わりご挨拶があり、ご来賓として、中部運輸局湯田豊人鉄道部長様、JR貨物執行役員東海支社長白石規哲様、米本亮一理事長からお祝辞を頂き、24年度の業務及び収支予算計画を報告し原案通り承認されました。

その後24年度の各表彰を行い終了した。終了後、慶応義塾大学大学院教授岸博幸氏を講師に「政治の混迷と日本経済の展望」というテーマで講演を頂きました。

講　演

正しい政策は何だったのか、何で間違えたのか、それを修正するにはどうすれば良いか消費税の問題と原発の問題で講演された。

◆消費税について
- 国の経済政策の達成目標は経済を抑止、生活、仕事を良くするということで、税をどうするかと言うことは経済政策の目標達成の手段の一つである。今の景気のデフレ状態は20年来続いている状況の中で増税をするとさらに悪化することになる。
- 政策は政府主導でやらなければいけないが、官僚依存体質になっている。結果的に政治家は官僚に対抗できない。
- 財務省主導で消費税増税案は通るでしょう。

◆原発について
- エネルギー政策の目的は電気の安定供給です。電力会社、発電所はその手段に過ぎない。その手段の一つが原発なのです。
- 福島第一原発事故で改めて、原発(原子力)がいかに危険な技術かというのが明確になった。
- 中長期的に電気の安定供給ができるならば、原発はゼロにしたほうが良い。

水戸支部

●日時　平成24年6月15日(金)
●場所　三の丸ホテル

楽しく講演された但野 正弘氏

平成24年6月15日15時より水戸市内の三の丸ホテルにて平成24年度水戸支部通常総会を開催いたしました。

来賓は、茨城県企画部地域計画課田山副参事、日本貨物鉄道株式会社関東支社土井副支社長、(公社)鉄道貨物協会本部照井業務部次長のご臨席を賜りました。

総会終了後講演会を開催しました。

講　演

講　　師	水戸史学会理事･事務局長　植草学園短期大学名誉教授　但野 正弘 氏
演　　題	「水戸黄門に学ぶ～人生の教訓～」
講演内容	徳川光圀公の出生秘話や人と人との不思議な縁、また光圀公が人生の上で大切にしてきた言葉などを現代の言葉で、分かりやすく講演されました。
視聴者の反応	・水戸光圀の若い頃は、大変やんちゃで不良少年であったことなど、TV等で知る人物像とのイメージの違いに益々興味を持ちました。 ・人の縁の大切さや人生の教訓をあらためて見直すきっかけとなりました。

秋田支部

●日時　平成24年6月15日(金)
●場所　ホテルメトロポリタン秋田

秋田支部では6月15日(金)に平成24年度通常総会を、総勢60名での開催となり、支部長挨拶後ご来賓(東北運輸局秋田運輸支局長、東日本旅客株式会社秋田支社運輸課長、日本貨物鉄道株式会社東北支社執行役員支社長、公益社団法人鉄道貨物協会本部総務部総括次長)の祝辞を頂き、議長選出による議案審議に続いて功労者の表彰(7名)を行い、全日程を滞りなく終了しました。

総会終了後は懇親会を開催し、交流を深めました。

千葉支部

●日時　平成24年6月15日(金)
●場所　京葉銀行プラザ

千葉支部では、6月15日に平成24年度通常総会を千葉市内の京葉銀行プラザにおいて開催いたしました。ご来賓としてJR貨物関東支社石原副支社長様、鉄道貨物協会本部中村エコレールマーク事務局長の臨席をいただき開催いたしました。総会では平成23年事業報告、平成23年度決算報告、役員の選任及び退任について原案通り承認され、その後鉄道貨物に功労のあった方に「鉄道貨物輸送功労者の表彰」を行いました。

大人も子供も夢中になった鉄道模型ジオラマ

第4回 レールエキスポ京都に出展

近畿支部・JR貨物と共催

6月9日～10日の2日間、京都市で「第4回 レールエキスポ京都」が開催され、鉄道貨物協会近畿支部とJR貨物事業開発支店の共催で出展しました。ブースでは貨物列車のグッズや時刻表の販売、またマンスリーかもつやエコレールマークのパンフレットとノベルティを配布し、鉄道貨物輸送について紹介をしました。

レールエキスポ京都は鉄道模型を販売している株式会社ボークスが主催し、電鉄会社や鉄道メーカーなど約50社が出展するイベントです。会場内には販売ブースの他、鉄道模型ジオラマや運転体験コーナーなどがあり、鉄道ファンや親子連れなど多くの方々で賑わっていました。

共同出展したブースはたくさんの来場者で賑わいました

大人気の運転体験コーナー

お国自慢

美し国

伊勢神宮・式年遷宮

伊勢神宮は「お伊勢さん」とか「大神宮さん」とか呼ばれ親しまれて、日本人の心のふるさとになっています。

伊勢神宮は正式には「神宮」と呼ばれ、内宮（皇大神宮）と外宮（豊受大神宮）のほか、14の別宮、摂社・末社など1125社で成り立っています。これらの宮社は伊勢市内とその近郊（松阪市・鳥羽市・志摩市・度会郡など）に御鎮座しています。内宮が現在の伊勢の地にお祀りされて2000年が過ぎました。

この伊勢の地は神話の時より、気候風土に恵まれ、大自然に育まれたまさに**「美し国（うましくに・伊勢）」**なのです。

担当：名古屋支部（丹羽幸子）

式年遷宮とは…

遷宮（せんぐう）とは、神社の正殿を造営・修理する際や、正殿を新たに建てた場合にご神体を遷すことです。

式年とは定められた年という意味で、伊勢神宮では20年に一度行われます。第1回の式年遷宮が内宮で行われたのは、持統天皇4年（690）のことです。それから1300年行われ、続けられ、昭和48年に第60回、平成5年に第61回が行われ、平成25年に第62回を予定しています。

神宮にとって永遠性を実現する大いなる営みでもあるのです。

伊勢名物

赤福餅の誕生は、いまから300年前の宝永四年（1707年）。

赤福餅は、お餅の上にこし餡（あん）をのせた餅菓子です。

形は伊勢神宮神域を流れる五十鈴川のせせらぎをかたどり、餡につけた三筋の形は清流、白いお餅は川底の小石を表しています。名は「赤心慶福（せきしんけいふく）」の言葉から二文字頂き、「赤福」と名付けたと言い伝えられております。

今津薬品工業株式会社

本社　〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-19 ライダーズビル　TEL(03)3255-0211
http://www.imazu-chemical.co.jp

お取引先様の信頼と共に60年　アルコールのことなら何でもご相談ください。

当社は、大正4年“アルコール売捌人”、東戸商店として創業、昭和27年その事業を継承し今津薬品工業(株)を設立、医薬・試薬・工業用・食品用エタノールの製造・販売を行う他、内外化学工業メーカーと特約し、石油化学製品、合成樹脂、工業薬品の販売をおこなっております。

《当社ブランド：ライダー印の由来》
ライダーは、天秤ばかりの分銅を意味し、バランス感覚に基づく経営を意味しております。

当社本社ビル

当社は長年に亘るアルコール専売制度からアルコール事業法が制定された今日まで経済産業省の許可を受けたアルコール販売事業者として自由に使用できる特定アルコールのほか経済産業局の許可使用者を対象とした一般アルコールの販売及びライダー印製品として日本工業規格に基づいて製造した試薬用アルコールや日本薬局方の規格より製造している日本薬局方アルコールは医薬品、食品工業等広い用途に安全に使用されています。

その他事業法のアルコールをベースとして製造し一般溶剤同様且つ無制限に販売使用できるイマヅ工業用変性アルコール、食品用アルコールでエタノール製剤(食品添加物)である「ライダン・ハイM」・中性タイプの「パワーコール」、食品衛生除菌用アルコールスプレー「プッシュコール」、指定医薬部外品　手指消毒用アルコール「ライダン ハンドジェル」と多岐に亘り販売しております。
このように当社は都内北区の工場を拠点に、エタノール製品各種を製造しておりますが、既製品のみならずお客様のニーズに応じた製品も提供しております。

また近年における食の安全・安心に伴う衛生管理や環境衛生対策など求められる中で、社員全員が常に高い意識をもって社会に貢献できる企業を目指しております。

ライダン ハンドジェル　　ライダン・ハイM

《当社上中里工場》

正門

水では落としきれない細菌、ウイルスまでアルコールの力で
すばやく消毒・殺菌(お肌にやさしいヒアルロン酸配合)

協会ニュース

平成24年6～7月分実施項目

本　部

6月　6日(水)／会誌編集会議(協会会議室)
6月28日(木)／第27回エコレールマーク運営審査委員会(協会会議室)
7月12日(木)～13日(金)／全国事務局会議
7月18日(水)／第3回利用促進委員会(協会会議室)
7月20日(金)／第3回輸送品質向上委員会(協会会議室)

支　部

●北海道支部　7月24日(火)～25日(水)
北海道支部第2回幹事会･企業見学会(北海道内)

●青森支部　7月21日(土)～22日(日)
貨物鉄道エコフェスティバル(八戸市)

読者の声

●娘9才は、貨物列車が大好きです。「貨物駅の仕事ガイド」が分かりやすく、少し理解出来たと思います。何を運ぶのと聞かれて、いろいろな物をと答えました。
●カラフルな紙面で楽しく読まさせて頂きました。
●「今年で創立50周年の京葉臨海鉄道(株)」地域に根ざす臨海鉄道としてコンテナ輸送の定時定型輸送をアピールしていく。
●貨物鉄道ファンとしては、3カ月先位までのイベント予定を掲載して欲しい。全国貨物鉄道地図が掲載されていると、内容と関連づけて読むことができるので良いと思います。全般的に丁寧な記事、紙面作りをされていると感じている。
●マンスリーかもつは多くの写真が使われ写真をみるのも楽しみで拝見している。コンテナ車･タンク車･人物知っている方がおられると、つい歓声が出てしまう。
●JRのエコに対する考えに大賛成。
●鉄道輸送(コンテナ輸送等)が輸送の方法として環境負荷が少ない事が良く理解できた。
●環境面やグローバル化などめまぐるしく変化している状況のなかで、日々努力している姿を拝見してとても勉強になります、これからも頑張って下さい。
●毎月、とても楽しみにしております。私も大型免許もっておりますので、環境問題の事とか気になります。貨物列車大好き人間です。
●「お国自慢」東京駅の紹介が面白かった。東京へ行く機会があれば立ち寄りたいです。
●エコが叫ばれる中、鉄道へのモーダルシフトが進むのか、緊急課題だと思います。
●本部委員会の審議内容にある年間テーマに荷擦れ、荷崩れ対策とあるのを見て、私の会社でもいつもかかえている問題は、どこにでもあるようですネ。最近は、荷崩れが少なくなったけれど荷擦れが多くなり、ダンボールを変更したり材質の変更や養生材を考えたりしています。良い参考例があれば、どこかに載せていただければいいですネ。
●ORS見学はとても良かったと思います。駅見学も荷主や一般にも広げる方も良いと思います。

MONTHLY かもつ・7月号　第62巻・第7号　2012年（平成24年）7月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／ 公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

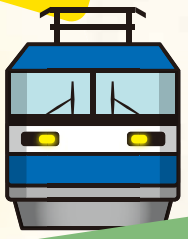
エコレールマークは、エコ輸送で地球環境に貢献する企業や商品を認定するマークです。

「物流の見える化」推進で
エコ社会の実現！

企業

エコに対する取り組みとして
鉄道輸送に転換し、エコレールマークを取得する。

モーダルシフト



鉄道輸送

環境負荷の少ない鉄道輸送で
「エコ物流」を実現

輸送

エコレールマーク

購入

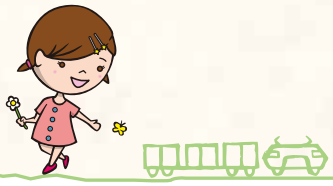
消費者

エコレールマーク商品を選ぶことで
CO_2排出量の削減に貢献。

販売

店舗

エコレールマーク商品を置くことで
エコ推進に協賛。



エコレールマークの認定基準

取組企業認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、
数量または数量×距離の15%以上。

500km
15%

もしくは、年間鉄道利用数量1万5千トン以上または
数量×距離1,500万トンキロ以上。

商品認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、
数量または数量×距離の30%以上。

500km
30%

▶▶▶ 詳細は協会ホームページをご覧ください。 http://www.rfa.or.jp/

エコレールマークの使用例

企業イメージ用

環境報告書／ウェブサイト／
ポスター／新聞広告／カタログ
（企業の取組の説明に係る箇所）等

個別商品用

商品／段ボール／カタログ
（商品の告知、説明に係る箇所）／
新聞広告 等

国土交通省 鉄道局貨物鉄道政策室
TEL 03-5253-8111 内線 40254 http://www.mlit.go.jp/tetudo/

公益社団法人 鉄道貨物協会 エコレールマーク事務局
TEL 03-5256-0580 http://www.rfa.or.jp/

MONTHLY かもつ
平成24年7月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可 MONTHLY かもつ 7月号 第62巻 第7号 頒価420円（本体価格400円 送料別 会員の購読料は年会費に含まれます） ISSN 0913-9850